

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ケアホーム田海園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県薩摩川内市城上町9750番地7
記入者名 (管理者)	徳丸栄子
記入日	平成 20年 3月 5日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念である『目配り・気配り・おもいやり』を重要事項説明書や契約書に明示し、玄関、廊下にも大きく掲示してある。また、『田海園便り』にも表記している。	○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は運営理念を理解し、実現に向けて日々取り組んでいる。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	重要事項説明書や契約書に表記し、入居者・ご家族に対しても利用開始時に十分説明し、同意を得ている。地域で認知症の方々が普通に暮らせることの大切さや、グループホームの役割を書いたパンフレットを田海園要所に置くなどしている。『田海園便り』も病院等に置かせていただいている。	○	
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	『田海園便り』を連携をとっている病院等や小中学校・地域公民会等に配布するなどし、日常生活ぶりを伝えている。又、盆・新年の挨拶回りを毎年行っている。	○	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの場所がわかりやすいように、案内板も数箇所設けている。散歩・買い物・ドライブ・暮れ市・季節の花見等に外出し、地域との交流を図る努力をしているが、トイレの設置場所等の問題や脚力の弱った利用者様を連れ出すには転倒の危険性も考えられ、積極的に行くことには困難がある。	○	事前のトイレ設置場所や手すり・広さ等の確認（既に取り組んでいる）の継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者に対する知識や介護技術については、全職員が各種の研修や事業所内で勉強会等を通じてスキルアップを図っている。	○ 今後は培ってきた知識や介護技術を通じて地域の高齢者やその家族等がその地域で安心して暮らせるよう支援を行っていききたい。また、事業所としてもそのような機会を積極的に奨励していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現在のサービスにおいて、良い所、悪い所を把握・認識し、職員自らが意識を持って改善に取り組む姿勢がある。	○
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A4サイズに記録した写真や行事報告書等で利用者の日々の生活や行事等を報告している。出席者の意見を取り入れ、なかなか面会のない家族へ写真を持参するなどしている。	○
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	薩摩川内市主催の認知症サポーター養成講座『キャラバンメイト』へも出席し、サービスの質向上を始め、認知症とはどういうものか、という課題にも取り組んでいる。	○
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	市で開催される講演会や研修等に出席し、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ姿勢を持っているが、活用する機会がない。	○
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等で得た情報を持ち帰り、資料等を職員皆で回覧するなどして、虐待防止に努めている。又、「こういうことは虐待ではないのか」との疑問を持ち、違う面からも見るようにし、話し合っている。	○

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書に表記し、入居者様、ご家族様に対して利用開始時に十分説明、不安等もお聞きし同意を得ている。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『苦情・相談委員会』を設け、利用者様・家族からの苦情等があった場合は記録するよう、ノートを準備しているが、最近は全く訴えない。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊号の『田海園便り』を利用者家族に送付することで日頃の暮らしぶりを見ていただいている。金銭管理については、領収書等を請求書送付時に同封している。又、面会時にも残金等をお知らせしている。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	『苦情箱』を設置し、意見等をいただくようにしているが、何も入っていない。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する職員会議や、日頃の業務の中で出た意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族に代わっての病院受診付き添いなど、勤務表調整し、必要職員を確保している。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない離職以外は、馴染みの職員がサービス提供できるよう、運営者と職員間で話し合い、利用者様へのダメージを最小限に抑えることができるよう努力している。	○	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する講演会等のパンフレットを掲示し、希望者を募っている。又職員会議や田海グループ内での勉強会も行い、研修の機会を設けている。	○	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催する事業所連絡会等で同業者同士の意見交換や交流の機会がある。お互いに困っていることなどをあげ、解決方法の検討等をしている。	○	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	冷暖房完備の休憩所を設け、十分にくつろげる環境づくりをしている。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者を含めた全職員の勤務状況を把握し、資格の取得や知識・技術の向上に向けた研修等への参加を奨励し、様々な情報や機会を提供している。	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いなどをじっくり聴く時間をとり、同調し受け止める努力をしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人には言えない困っていること等を聴く機会をつくり、思いを受け止める努力をしている。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず必要としている支援を見極め、他のサービスで解決することであれば、本人・家族に持ちかける、などの対応をしている。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員と顔なじみになり、他利用者様や園の雰囲気にもなれていただけるよう職員間の情報交換をしながら家族へも相談し、良い関係がつかれるよう工夫している。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に考え、少しのことでも喜びや哀しみ等を共にできるよう、ゆったりした雰囲気作りに努めている。	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの訴えを傾聴し、利用者本人にとって一番良い対策は何なのか、を一緒に考えていけるような雰囲気づくりに努めている。又、実際に一緒に考え、その後の様子を報告している。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話連絡等で家族との情報の共有をはかり、よりよい関係を保てるよう支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や墓参り等は家族と一緒にに行けるよう、体調管理にも注意しながら支援に努めている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員全員が利用者一人一人の性格やその人なりのやり方等を把握し、作業を一緒にしたりしている。又、うまくたためない利用者様の洗濯物を他の利用者様をお願いするなどしてお互いに支えあえる場を作っている。	○	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設転移や入院等により退所された利用者様や家族についても適時状況等を尋ねる等、関係を継続している。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の暮らし方や希望等を把握し、その人らしい暮らしを続ける方法を随時検討している。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人が面会に見えた時等に聞き取りを行い、それを参考にした支援を行っており、利用者個々がそれまで暮らしてきた経験などを活かしながら毎日を過ごせるよう、努めている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の現状を把握し、その日の心身状態に合わせて、利用者ができることをお願いするようにしている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に、又は必要時に職員・家族等と話し合い、本人にとって一番良いサービスを提供できるようにしている。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングし、介護計画の見直しをしている。状態が変化した場合は随時話し合い、現状に合った計画を作成している。	○	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個々の記録に残し、医師等からの情報は『申し送りノート』に記載し、職員全員が同じ情報を共有・検討しながら介護計画等の見直しに活かしている。	○	
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週2回はデイサービス利用者様とのふれあいの場を作ったり、天気の良い日は花を見に出かけるなどしている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様が居住されていた地域の民生委員等の来園、地域の市（暮れ市等）等への参加、学校の職場訪問受け入れなどで交流を図りながら支援している。	○	地域資源のさらなる活用
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、利用できるサービスを検討し他事業者に相談するなどの支援をしている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人又は家族の意向や必要性がある場合は、地域包括支援センターの情報等についても適時収集している。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様には主治医がおり、定期的に受診をしている。施設との協力機関の内容について、診療科目や緊急時の対応措置等、利用者及び家族に周知し了解を得ている。又、病状や状態に応じて協力医療機関より紹介をもらい、症状にあった医療機関を受診している。	○	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する協力医療機関が確保されており、定期的又は変化があった際はその都度相談し、相談・指示を仰いでいる。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと24時間体制で連携がとれており、訪問日には利用者様の体調等について相談し、アドバイスを受けている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	職員は医療機関へ頻回に足を運び、医師等に状態を伺い、家族に対しても経過を説明し、回復に向けた支援と連携をとっている。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方についてのマニュアルもあり、職員全員で方針を共有している。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所としてできることを職員が理解しており、24時間対応の医療機関（かかりつけ医・訪問看護）と連携をとり、チームとして支援に取り組んでいる。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない</p>	職員は利用者一人一人を理解し、誇りやプライバ シー・個人の尊厳を損ねないように配慮ながら 声かけや対応行っている。個人情報の取り扱いに も十分注意している。	○	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる</p>	本人に合わせた声かけや雑談等をしている。何か を決めていただかないといけない場合などは、雑 談等の中で納得できるような会話になるよう配慮 している。	○	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている</p>	起床から就寝まで、利用者様のペースに合わせた 柔軟な対応ができています。又、外出等において も本人の意思を尊重し、無理に連れ出すことはしな いようにしている。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている</p>	週に1回の買物の日や花見等には、外出用の衣類 を職員と一緒に楽しみながら選べるよう支援して いる。美容院については、寒い時期は外出を控え る傾向にあるため、職員が散髪をしている。暖か い時期には家族と一緒に馴染みの美容室へ行かれ る利用者もいる。	○	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている</p>	利用者様は職員と一緒に食材の準備をしたり、片 付け当番で食器洗いをされている。又、それぞ れの食事形態（お粥、きざみなど）を把握し、食 事の準備を行っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日のおやつは利用者様と一緒に一週間分ずつ考え、毎週土曜日に利用者様と一緒に買い物に行っている。月に1回の「どうみ喫茶店」では、普段と違った器を使い、利用者様に飲み物の注文を受けてお出しし、楽しんでいただけるよう努めている。	○	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作り、個々の排泄パターンの把握をしながら、トイレに行くタイミングを逃すことがないようにそっと声かけし、気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	長く入浴しないことがないように、ある程度は職員で入浴を勧めるが、「入浴したい」との希望がある利用者様は毎日でも入浴していただいている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様それぞれのお気に入りの場所でくつろげるよう支援している。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	廊下にあるボードに一日の作業係りを掲げ、本人に自己決定していただき、無理のないよう共に行うようにしている。気晴らしに庭に出て行かれる方についても、何気なく傍をついて行く様子と一緒に散歩など楽しめるよう、支援している。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物や市に行く時は、お金を少しずつ持たせていただき、職員と一緒に、或いは見守りで使わせていただいている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者様が一人で庭に出た場合は近距離で見守りができるような体制をとり、転倒等の危険が伴う恐れのある場合は、職員がさりげなく寄り添い一緒に散歩などするようにしている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出はいつでもできる体制にある。季節に応じた場所（夏はそうめん流しなど）に皆で行けるよう手配をし、楽しんでもらえる機会を作っている。	○	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は職員が電話をかけ、利用者様に話しをしていただいている。家族宛てに書中見舞いや年賀状などを利用者を書いていただき、家族にも喜ばれている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は居室・ホール等、希望の場所で面会していただき、お茶を飲みながらゆっくり話しをされる機会を設けている。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等へ参加し、研修記録や資料を職員全員で回覧して、職員全員が正しく理解・認識し、身体拘束の無いケアを実践している。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけないようにしている。職員による十分な目配りにより、外へ出て行こうとされる転倒の危険性のある利用者様にはさりげなく一緒に外の散歩をしたりしている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全 に配慮している	一人一人の性格や行かれそうな場所などを把握 し、常に安全であるよう配慮している。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではな く、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取 り組みをしている	一人一人の性格等を把握し、危険を防ぐ取 り組みをしている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ ための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた 事故防止に取り組んでいる	緊急対策マニュアルを作成し、職員もその内容 を理解している。	○	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職 員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っ ている	緊急時マニュアルを作成しており、職員会議時 等を利用し説明や勉強会を行っている。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わ ず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろ より地域の人々の協力を得られるよう働きかけ ている	定期的に避難訓練や消火訓練等を行い、全職員 が対応できるようにしている。	○	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族 等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	職員会議や随時の会議開催時に、リスク等も 検討し、器具等で予防できそうなことに関し ては家族に相談している。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は日々のバイタルチェックや日常行動・癖などを把握しており、業務日誌にも特記事項として記載し、情報の共有を図っている。身体に変化が見られた場合、状態に応じて医療機関に連絡し往診してもらう、などの体制をとっている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人一人の薬の目的などについて十分理解しており、状態に応じて食事量や運動量などの対応を柔軟に変化させ、実施している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況も一人一人を把握し、必要時に処方されている内服薬を服用していただいている。又、運動不足にならないよう、運動を兼ねて遠いトイレへ排泄に行かれるよう誘導をしている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔は、殆どの利用者様が自分でできていない。職員は、利用者様個々のできること、できないことを十分に把握し、できる利用者様は見守りの中で自力でしていただき、できない利用者様は残存機能を生かした支援を行っている。	○	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない利用者には、食事の声かけや内容の説明などを行い、できる限り多くの種類の物を食べていただけるよう支援している。水分についても摂取量の少ない利用者様には時々お茶以外の飲み物をすすめたりして脱水に十分注意している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成しており、職員会議や企業全体の勉強会も実施している。職員の体調不良時は、リーダー・管理者に報告し感染媒介者にならないよう注意している。又、利用者様共にインフルエンザ予防接種を受けている。	○	職員個々の体調管理と職員・利用者の予防

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味期限チェックを怠らず、新鮮な食材を使用し、調理前の十分な手洗等の実施や食中毒防止に努めている。手順等を作成して、調理器具管理、台所衛生管理を行い、清潔・衛生を保つようにしている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の庭には、利用者様と職員とで作った花壇などがあり季節の花が咲いている。又、玄関入り口も季節ごとに雰囲気を変えるなどして、利用者様や家族が入りやすいよう、工夫している。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目の板張り木製の食卓を配置し、家庭的で温かみのある雰囲気演出している。又、壁の飾りも季節に合ったものに変えるなど、落ちついて過ごせるよう工夫している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂にはテーブルと椅子・ソファが備えてあり、利用者様はそれぞれ気に入った場所で自由に過ごすことができる。	○	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた物や思い入れの強いものを持って来ていただき、また、自分の作品を飾り、気に入った空間を作っていたいでいる。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その日の外気温で冷暖房の温度調節を行ったり、服装の調整を行っている。居室の温度は一人一人に合った快適な温度になるよう、調整している。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	廊下やトイレ、浴室には手すりが設置され、又、 段差をなくし、転倒等の危険防止を行っている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	各居室に名前が表記され、写真が飾ってある。浴 室やトイレの前なども暖簾や表札などでわかりや すく工夫している。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	洗濯物干し場のスペースをとってあり、職員と一 緒に洗濯物取り込みをしている。又、季節ごとに 花の植え替えもできるよう、広くスペースを取っ ており、水撒きや草取りなどの手入れも行ってい る。	○	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	③ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の健康等に気を付け、普段と違う様子が見られた場合はすぐに医師へ連絡・相談できるよう一人一人の状態を把握し、申し送りも徹底している。行事等を行った場合はビデオや写真を撮り、最新版は掲示板や廊下に貼りだし、家族等の面会時に日頃の生活の様子を見ていただけるようにしている。ビデオはテレビに映し出すことで、利用者から「あ、あそこに私がいる」などの声があちこちの場面から聞こえ、和やかな雰囲気づくりに努めている。撮った写真の編集も「どの写真をどこにいれましょうか」などと、利用者と一緒にしながらA4サイズにまとまるよう行事毎のアルバムをつくり、「あの時は～だったね」などと話しながり返り見て見る機会を作っている。